

病院計画総覧

開始された2025年医療体制への準備

2017
年版



発行 産業科学出版社

(7) 星総合病院グループ

福島県内で3病院1086床を運営、病院跡地開発は市の市街地活性化計画に連動

公益財団法人 星総合病院は福島県内で星総合病院(430床)、星ヶ丘病院(570床)、三春町立三春病院(86床)の3病院1086床を展開。社会福祉施設では養護老人ホーム三春町敬老園、介護老人保健施設オリオン、関連の(福)愛星福祉会を通じては特別養護老人ホームの星ヶ丘ホームのほか、星ヶ丘デイサービスセンター(定員30人)、星ヶ丘ホームヘルプサービスセンター、星ヶ丘在宅介護支援センター(指定居宅介護支援事業所)、精神障害者生活訓練施設 北天寮(定員20人)などを運営。このほか、ポラリス保健看護学院を運営するなど多角的な経営を行っている。同グループではこれら施設が単独でなく、法人全体での組織運営を行うことで、地域ニーズに応じた保健・医療・福祉サービスの提供とサービスの質を向上させる狙いがある。

13年1月には狭隘化により旧星総合病院を移転改築した。規模は敷地面積3万4647㎡にRC造り5階建て延べ約3万9782㎡。その隣接地に同年7月に新ポラリス保健看護学院をオープンした。

同グループでは、さらに保健・医療・福祉サービスの提供を充実させるため、旧星総合病院移転跡地約5300㎡を開発する計画である。詳細はまだ確定していないが施設規模は5～6階建て延べ1万㎡を想定しており、高齢者向け住宅を主体に医療、介護、看護などの機能を加えた複合施設とする構想。病院では当面は未定としているが、郡山市が新たに中心市街地活性化

基本計画に歩調を合わせたいとしており、市が現在、策定作業に入っているため具体化は早くは17年度以降になる見通しである。

同病院では16年度の基本目標として、①星総合病院が提供する急性期医療を地域のハブとして十分に機能できる体制を整備する。②星ヶ丘地区の長期的な事業計画を策定し、施設改修事業を具体的に進める。③法人の資源・機能を集積し、全ての住民を対象とした地域包括ケアシステムを構築する。④在宅部門の充実を図り、訪問看護ステーション等の事業拡大と効率化を推進する。⑤認知症対策については行政とタイアップし、全施設が地域の牽引役となる。⑥保育事業を積極的に推進し、地域社会へ貢献する。⑦給食の改善を推進するため、農業の事業展開を基盤に食材の調達体制や業務体制を見直す。⑧組織の活性化を図り、魅力ある労働環境をつくる、を挙げている。

(8) 国際医療福祉大学・高邦会グループ

成田市で医学部を17年4月開学

国際医療福祉大学(東京事務所=東京都港区南青山1-24-1、Tel.03-6851-7524)は、2016年8月31日に文部科学省の大学設置・学校法人審議会から文部科学大臣に対し、開設を許可するとの答申がなされ17年4月に開学する。20年には、病床数640床の国際医療福祉大学成田病院の開院も計画している。

同大学では、10年間にわたり新しい医学教育の実現をめざして議論を重ね、成田市と共同で政府に「国際医療学園都市構想」を提案し、15年11月に政府による

星総合病院グループ 施設一覧

名称	住所	電話	概要
星総合病院	福島県郡山市向河原町159-1	024-983-5511	430床、27科目
星ヶ丘病院	福島県郡山市片平町字北三天7	024-952-6411	570床、6科目
指定管理三春町立三春病院	福島県田村郡三春町字六升蒔50	0247-62-3131	86床、12科目
ほし横塚クリニック	福島県郡山市横塚2-20-36	024-956-7778	1科目
養護老人ホーム 三春町敬老園	福島県田村郡三春町字六升蒔50-1	0247-62-3618	80床
介護老人保健施設 オリオン	福島県郡山市片平町字峯三天2	024-952-6413	100床
ポラリス保健看護学院	福島県郡山市向河原町159-7	024-983-5010	
(福)愛星福祉会 特別養護老人ホーム星ヶ丘ホーム	福島県郡山市片平町字妙見館1-1	024-952-6412	50床
三春町第1保育所	福島県田村郡三春町担橋1-4-1	0247-62-3839	

第2章 医療業界の最新トレンド

1. ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT)

腫瘍細胞のみ選択的に破壊

ホウ素中性子捕捉療法BNCT (Boron Neutron Capture Therapy) は、腫瘍細胞内にホウ素の同位体である「 ^{10}B 」を取り込ませ、外部からエネルギーの低い中性子を照射すると、 ^{10}B 原子核は中性子を捕獲し核分裂を起こす。

この ^{10}B (n, α) ^7Li 核反応により α 粒子 (ヘリウム原子核) の α 線とLi反跳核 (リチウム原子核) が放出され、これらが腫瘍細胞を殺す。この原理は、中性子が1932年にChadwickによって発見された4年後の1936年に、米国の物理学者Locherによってその原理が提唱された。

これらの荷電粒子は、組織内での飛程距離がそれぞれ約 $9\mu\text{m}$ 、約 $5\mu\text{m}$ とされ、この飛程距離は腫瘍細胞の1個分の大きさに匹敵する。このため、理論的には、正常な脳神経細胞などをほとんど傷つけないことなく、腫瘍細胞のみを細胞レベルで選択的に破壊することが可能となる。さらに、BNCTで発生する α 線とLi反跳核は、X線やガンマ線に比べて生物学的効果が2~3倍程度高いとされている。

この特長を活かして、高精度放射線治療や粒子線治療では対応が困難である、脳の悪性脳腫瘍や皮膚悪性黒色腫、放射線治療後の再発頭頸部がんといった腫瘍に対して、BNCTを適応することが可能で、京都大学原子炉実験所などでBNCTの治療が実施されてきた。

京大が開発した加速器BNCTで病院併設が可能に

京都大学原子炉実験所 (KUR) では、1990年から2012年までに、安定した中性子源である同研究所原子炉にて、医療機関と共同臨床研究として450件を超

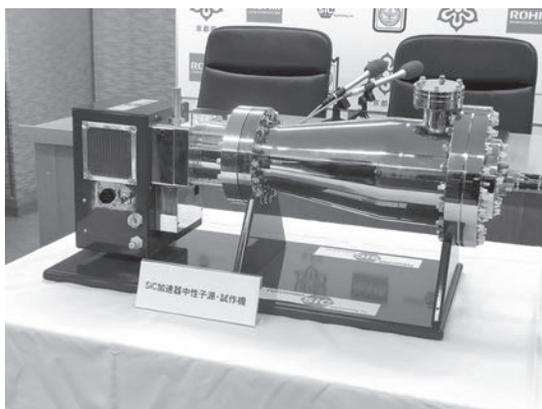
えるBNCTを実施した。

08年には、世界初となる加速器を中性子源としたBNCT照射システムを設置し、12年10月から再発悪性脳腫瘍を対象疾患とした、加速器BNCT照射システムとホウ素薬剤を用いての実施を開始した。

コンパクトな加速器中性子源とBNCT照射システムの実現により、一般の医療施設でBNCTの実施が可能となる道が拓け、南東北病院、国立がん研究センターなどで施設整備が進んだ。

ロームら、超小型中性子源を開発

京都府 (京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町、Tel.075-451-8111)、ローム㈱、京都府立医科大学、福島SiC応用技研㈱の4者は、16年11月に、SiCデバイスを使用したホウ素中性子補足療法用治療機器 (SiC-BNCT機器) の研究開発および、臨床などを行う研究センターを整備することで基本合意した。小型かつ高精度なBNCT機器の実用化を目指す。20年度から臨床試験を開始したいとしている。



試作した中性子源

三重県

16年度内に地域医療構想を策定

三重県（津市広明町13、Tel.059-224-2326＝健康福祉部医療対策局地域医療推進課）では、15年度から2次医療圏の各地域（東紀州圏域は1圏域1地域）に設置した地域医療構想調整会議を重ねており、16年11月に、2025年の病床の機能別構成を含む地域医療構想の中間報告をもとに会議を行い、16年度内に地域医療構想を策定する予定である。

東紀州圏域で医療連携やリハビリの充実へ

三重県では、13年4月から18年3月にわたる保健医療計画に沿って諸施策を行っている。

質の高いがん医療では、県がん診療連携拠点病院である三重大学医学部附属病院が、その役割を十分に担うことができるよう、がん治療のための高度専門的な医療機器などの整備や、がん診療連携拠点病院等の整備（指定）を進めるとともに、緩和ケア病棟の設置を検討している医療機関からの相談に応じ協議を進める。

また、がんと診断された患者の不安が少しでも和らぐよう、診断時から緩和ケアを開始する体制を強化し、さらに、がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養を選択できるよう、がん診療が可能な診療所や訪問看護ステーションなどの充実、多職種との連携を強化し、在宅医療体制の整備を図る。

急性脳疾患対策では、東紀州保健医療圏で、t-PAによる脳血栓溶解療法の実施可能な医療機関が不足しており、ドクターヘリの活用や、隣県の医療機関とも連携した脳卒中医療連携体制の充実を図り、また、地域連携クリティカルパスに基づく急性期の診療計画作成の実施件数は、東紀州保健医療圏と中勢伊賀保健医療圏で少ない状況であるため、急性期の地域連携

クリティカルパスの作成に向けた取り組みを開始する。

このほか、全国平均を下回る早期リハビリテーション実施への体制整備、東紀州保健医療圏における回復期リハビリテーション体制を整備していく。

合併症予防や在宅復帰を目的とした心臓リハビリテーションが可能な体制、ならびに運動耐容能（身体運動負荷に耐えるために必要な呼吸や心血管系の能力に関する機能）などに基づいた運動処方により合併症を防ぎつつ、包括的あるいは多要素リハビリテーションを実施できる施設を増やすことも必要となっている。

糖尿病対策では、要精密検査者の早期受診を促すための連携体制の構築、重症化や治療中断を防ぐためにも、治療に関わる全ての医療従事者のスキルアップや、

三重県の病床機能報告の結果

表中①は2015年7月1日時点、②は6年が経過した病床機能の構成で、東紀州の②の数値は、病床機能報告がなされなかったものとみられる

区域	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	地域別合計
桑員①	3	1,217	71	532	42	1,865
桑員②	0	907	71	532	355	
三泗①	346	1,440	321	691	10	2,809
三泗②	346	1,448	322	691	2	
鈴亀①	296	840	107	625	2	1,870
鈴亀②	296	786	161	624	2	
津①	697	1,473	407	1,040	52	3,669
津②	697	1,473	548	939	12	
伊賀①	0	850	50	156	0	1,056
伊賀②	0	850	50	156	0	
松阪①	167	1,290	225	541	9	2,232
松阪②	212	1,136	275	481	128	
伊勢志摩①	273	1,096	195	376	130	2,070
伊勢志摩②	273	1,096	287	376	38	
東紀州①	0	479	40	385	0	904
東紀州②	0	0	0	0	0	
総計①	1,782	8,685	1,417	4,346	245	16,475
総計②	1,824	7,696	1,714	3,799	537	15,570

二次保健医療圏の構成区域および市町

二次保健医療圏	区域	構成自治体
北勢保健医療圏	桑員	桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町
	三泗	四日市市、菟野町、朝日町、川越町
	鈴亀	鈴鹿市、亀山市
中勢伊賀保健医療圏	津	津市
	伊賀	名張市、伊賀市
南勢志摩保健医療圏	松阪	松阪市、多気町、明和町、大台町、大紀町
	伊勢志摩	伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町
東紀州保健医療圏	東紀州	尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

公立岩瀬病院：新棟

福島県

【所在地】〒962-8503 福島県須賀川市北町20 Tel.0248-75-3111
 【開設者】公立岩瀬病院企業団 【院長】三浦純一 【事務長】—
 【診療科目】内、循、呼、消、外、整、婦、皮、泌、小など15科 【病床数】240床
 【計画地点／規模】所在地と同じ／3階建て延べ3971㎡
 【事業費／着工／完成】31億円／2015年度／2016年度
 【設計／施工】佐藤総合計画／安藤ハザマ

【計画内容】同病院では、岩瀬・石川地域の医療懇談会で産科・婦人科の新設要望が強かったことに対応し新病棟の建設を行うもので、数年前に行っていた産科・婦人科診療を復活する。施設規模はS造り3階建て延べ3971㎡。内部は1階が受付、駐車スペース(27台規模)、2階が分娩室(LDR1室)、3階が外来、NICU(3床)、GCU(6床)を予定し、既存施設と渡り廊下でつなげる。産婦人科病床の30床と合わせて39床を新棟に入れ、内訳は4床部屋が4室、個室(シャワー、トイレ付き)が23室。これにより全体病床数は240床から279床に増え、診療科目は新たに産婦人科を創設する予定。17年1月の竣工、同4月の開院を予定している。

福島県

南相馬市立総合病院：大規模改修

福島県

【所在地】〒975-0033 福島県南相馬市原町区高見町2-54-6 Tel.0244-22-3181
 【開設者】南相馬市 【院長】金澤幸夫 【事務長】—
 【診療科目】内、循、小、外、整など21科 【病床数】230床(一般170、救急10、リハビリ50)
 【計画地点／規模】所在地と同じ／—
 【事業費／着工／完成】—／2017年度／2021年度
 【設計／施工】関・空間設計／—

【計画内容】同病院は、地域の中核病院として機能しており、診療科目は21科、病床数230床(一般病床170床、救急病床10床、リハビリ病床50床)。現病院施設は、92年建設で規模はSRC造り7階建て延べ約1万2000㎡。築後25年近くを経過し、老朽化が進んでいるため大規模改修を計画した。施設全般の改修を実施するが、耐震基準は満たしているため、補強工事は実施しない。このほど随意契約で基本・実施設計業務が関・空間設計に内定し、16年度の設計作業を経て17年度から着工する予定。改修工事中も病院業務を行うため、工事は部分ごとに分け、5カ年で実施する計画。

南相馬市立総合病院：脳卒中センター・新築

福島県

【所在地】〒975-0033 福島県南相馬市原町区高見町2-54-6 Tel.0244-22-3181
 【開設者】南相馬市 【院長】金澤幸夫 【事務長】—
 【診療科目】内、循、小、外、整など21科 【病床数】230床(一般170、救急10、リハビリ50)
 【計画地点／規模】所在地と同じ／S造り5階建て延べ約8500㎡
 【事業費／着工／完成】58億円／2015年2月／2016年内
 【設計／施工】久米設計／佐藤工業・庄司建設JV

【計画内容】脳卒中医療に十分対応できるよう同地方における中核施設として整備。施設規模はSRC造り6階建て延べ約9158㎡。内部は1階が救急部、放射線科、外来(脳神経外科・小児科など)、2階がリハビリテーション室、管理部門、3階が脳神経外科病棟、4階がリハビリ病棟、5階が屋上ヘリポートを予定。病床は、新たに病床を40床増床する予定であり、本院にある60床の移設と合わせ100床体制とする。これにより全体病床数は230床から270床に拡大予定であるが流動的。外来、リハビリテーション室などを先行オープンしており、残る工事を行い、16年内の竣工、17年2月の正式開院を見込む。建設費は43億3600万円で、総事業費は58億円の見込み。

ヨッシーランド：移転改築

福島県

【所在地】〒975-0034 福島県南相馬市原町区上洪佐字北谷地1-8 Tel.0244-24-0000
 【開設者】(医) 慈誠会 【院長】— 【事務長】—
 【診療科目】— 【病床数】—
 【計画地点／規模】南相馬市原町区石神赤坂109-1／4111㎡
 【事業費／着工／完成】—／2016年3月／2017年3月
 【設計／施工】フォルム建築計画／石川建設工業・菅野建設JV

【計画内容】介護老人保健施設のヨッシーランドは、原町区上洪北谷地1-8で運営していたが、東日本大震災で被災し、内陸部に移転する。施設規模は敷地面積約2万㎡にS造り2階建て延べ4111㎡。定員は100人で、認知症グループホーム18床も設ける。完成は2017年3月を予定している。



書名病院計画総覧 2017年版
体裁・頁数B5判 オフセット刷り 912頁
定価25,000円+税、〒共
発行2017年2月13日